

1. 近江文化の総合発信機能

目的

- ・子どもから大人までのあらゆる世代の人を対象に、近江の文化財や風土の魅力に触れ、学ぶ機会を提供する。
 - ・(仮称) 新・琵琶湖文化館で開催する展覧会や県内各地に点在する文化財に誘う要素を有する。
 - ・あらゆる世代の人が「近江の文化財」に親しめるようになること。
- ※1階に設けることを基本とし、入場無料とする。

滋賀の地理的環境・歴史的環境

本県は四周を比良山地、伊吹山地、鈴鹿山脈等の山々に囲まれ、中央には琵琶湖が横たわる。また西は都である京都、南は古都ある奈良、北は大陸へとつながり国内外の文化の交差点であった北陸、東は広大なフロンティアである東国との境に接し、それらの結節点として数多くの街道が通る。豊富な水、森林資源、そして肥沃な土壌を有することから、縄文時代以来の多くの遺跡が確認されている。

有史以降はさらに開発が進み、大津宮などの都や保良宮などの離宮、国家的な寺院などが造営された。日本仏教の母山と称される比叡山(延暦寺)が創建されるなど、豊かな仏教文化が花開き、歴史上重要な寺院や全国的な信仰を集める神社なども建立され、多くの文化財が生み出された。町や村での人々の暮らしにも神と仏の文化が影響し、特色ある祭りなどの民俗行事も受け継がれている。

また、戦国時代には織田信長や豊臣秀吉など著名な武将が活躍し、安土城や長浜城、彦根城などの城郭遺構が築かれ、姉川や賤ヶ岳など戦国の舞台となった古戦場も点在する。江戸時代には彦根藩、膳所藩をはじめ多数の所領に分割されつつ、東海道、中山道など主要街道が通ることで経済的に反映し、他国との流通に従事する「近江商人」が活躍して、多数の文化人を輩出した。

基本的な考え方

- ・地理的環境、歴史的環境を踏まえた、近江の文化財の総合的なイメージを発信する。
- ・地図(地形図)等により、本県の地理的情報や地域特性を踏まえつつ文化財や主要な社寺の情報等を能動的に体感し、楽しむことができること(「歩く」「触れる」等)。
- ・上記のことを、最新のデジタル技術等を積極的に用いて実現すること

必須事項

- デジタル技術を活用した、文化財鑑賞の補完および利用者が楽しめるコンテンツの創出
- 「地理」、「社寺」、「文化財」の基本的な情報をわかりやすく提供
 - ・地理(地理的環境): 県全域の地図などの地理情報(地形、河川、街道などの情報を含む)
 - ・社寺(歴史的環境): 各地域の代表的な社寺などの歴史遺産情報

※地理情報と連動させる

- ・文化財（近江の文化財）：各地域の代表的な文化財情報(有形、無形、民俗)

※地理情報と連動させる

- ・デジタル技術等を用いた年表

※地理情報と連動させることも可

※施設コンセプトに合致した新たな展示手法を積極的に活用すること

任意事項

- ・レプリカなどを用いたハンズオン展示

留意事項

- ・多くの人が同時に利用できるよう工夫すること
- ・実物展示は行わないこと(レプリカ、模型等は可)。なお、県は、展示室において実物展示を主とした企画展中心の展示運営を行う予定である。
- ・ハンズオン以外のレプリカは展示しないこと。
- ・詳細については、県と事業者で協議の上決定すること。

2. ライブラリー

- ・収藏品データベース閲覧システム
- ・収藏品高精細画像、3D画像等閲覧システム
※高精細写真の撮影、3Dデータの収集を含む。
- ・本県の歴史、文化、自然などを紹介する書籍、開催中の展覧会に関連する書籍の閲覧
※エントランスホールと一体となったオープンな空間とすることも可能